

ふるさとの誇り、石州瓦を使って家を建ててみませんか。

石見地方は、愛知県の三州地方に次いで国内第2位の生産量を誇り、年間約1億5千万枚、一般家屋約5万棟分の瓦を供給しています。

大田市ではこの半分を生産しており、生産額は約70億円。大田市の総生産額の8%近くを占めています。

石州瓦のおこり

石州瓦は、江戸時代のはじめに浜田藩主の吉田重治が浜田城を築く際、大阪から瓦師を招いて、瓦をこの地で製作させたのが始まりと言われています。

また、石州瓦の職人が試行錯誤の末、造り上げたこの地方独特の「釉薬瓦（焼物の上薬を施して彩色した瓦）が赤瓦。この赤瓦が葺かれた美しい町並みは、石見地方の代表的な景観となっています。

大田市には、80余りの瓦の窯跡が確認されています。水上町の「島田窯」（写真右下）は、現存する13段の登り窯跡で、当時使われていた瓦の製造機道具などがそのままの姿で残っており、かつての隆盛を今に伝える全国的にも貴重な窯跡です。

瓦と地震

阪神・淡路大震災の直後、

倒壊した家屋に瓦が使われていたものが多かったため、家屋倒壊の原因が瓦であるという安易な報道がなされました。

しかし、震災の家屋倒壊の本原因は家の構造そのものにあります。地震に弱い構造の家に瓦を使用していたために結果的に倒壊してしまつたのです。近年の建築基準を満たした家であれば、瓦を使用しているても倒壊の恐れはまずありません（石州瓦工業組合では耐震実験を何度も重ねています）。

伝統を受け継ぐ石州瓦

石州瓦は都野津層（石見沿岸部一帯に広がる良質な粘土を含んだ地層）から採れる粘土で作られますが、この粘土は火に強い特性があるため、高温で焼き締める必要があります。

そのため、石州瓦は吸水性が極めて低いという特性を

持っています。

これにより、瓦の組織の隙間に水分が入り込み、凍結によつて瓦が割れる「凍害」や瓦に付着した塩分が水に溶け、瓦の組織の内部に侵入し、結晶化して瓦を破壊していく「塩害」

などの日本独特の様々な被害に對して無類の強さを発揮します。瓦は、断熱効果も他の屋根材より優れている上、施工後の維持費がかかりません。四方を海に囲まれ、湿度が多く、冬季にはとくに

より氷点下を記録する我が国にふさわしく、省エネ、耐久性に優れ、環境にやさしい屋根材であると言えます。

石州瓦が屋根材として、何百年と時代を経た今でも変わらず使われているのは、優れた住宅建材であることの証し



3大瓦産地
三州瓦(愛知県)
石州瓦(島根県)
淡路瓦(兵庫県)

です。

現在、大田市で瓦を生産しているメーカー4社（下・問い合わせ先）は、石州瓦の古き良き伝統を今に受け継ぎながら、顧客ニーズへのきめ細かい対応、防災瓦などの新商品の開発、市場の拡大に取り組んでいます。

近年、東南アジアを中心に、

石州瓦を海外に出荷するメーカーもあり、その品質から海外でも高い評価を得ています。

石州瓦の利用促進に向けて

大田市では、地場産材を皆さんにご利用いただき、理解を深めていただくため、今年度から石州瓦利用促進事業を始めました。石州瓦を利用した新・増改築、屋根替えを大田市内の建築業者に発注される場合に、瓦の購入費の一部を補助する制度です（一定条件あり）。この機会にふるさとの家の屋根替えなどを、お考えになられてはいかがでしょうか。

株式会社シバオ

電話 0854 (89) 0201
http:// www.shibao.co.jp

株式会社セラミカ

電話 0854 (89) 0011
http:// www.ceramica.or.jp

株式会社森崎窯業

電話 0855 (66) 0111
http:// www.sekisyu-morisaki.co.jp

石央セラミックス協同組合

電話 0855 (65) 2868
http:// www2.crosstalk.or.jp/sekio

【参考文献】石見瓦窯誌（大田市編）「三国靖夫著 石州瓦史 鶴田真秀著」

石州瓦性能読本（石州瓦工業組合）